

No.6
'70.11.8

岐阜の博物館

編集
兼
発行

岐阜市岩戸花月町2の1
濃飛甲冑研究所内
岐阜県博物館協会

教育部門の設置と社会心理学の活用を!!

「岐阜県総合博物館の建設について」の要望書と構想案を見て

東京教育大学 松原 隆哉

この度、置県百年の記念事業のひとつとして、県立の総合博物館建設の話がもうあがり、りっぱな構想が発表されたことは、在京の岐阜県人の一人として、また教育の道にたずさわる者として、大変うれしく思います。

ご承知のように私が勤務しています大学はその昔、岐阜県本巣郡北方町出身で、わが国博物館界畜ての親である棚橋源太郎先生が学ばれ、そして教鞭をとられ、また付属教育博物館主事としてその運営にあたられたところがあります。この構想を拝見しながら思いましたことは、地下の棚橋源太郎先生のおよそこひはいが程であらうかということでした。

博物館の性格を列举する最初に、「今日を救う博物館を」とのべてあります。大部分の人間は何らかの心理的な問題を叩かえています。このような人間の心理弱に目をむけて、「今日を救う働きを持つ博物館」というのを最初に打ち出してこられたことは、心理学を専門としています者として敬意を表します。

果して博物館がどのような面において、「今日を救いうるか」また「救い得たか」という問題は、心理学上がらゐり、とても非常に関心のあるところでもあります。創造的な人間形成が重視されています。現在「あすを創造する博物館」の考えも、また大変結構だと思えます。これから博物館での心理的研究は、今まであまりとりあげられていない分野であります。岐阜県立博物館が、このような構想案を充分とり入れて、完成する日の一日も早くらんことを願います。今後は社会心理学をも活用して運営と研究を期待します。

それからもうひとつのお願いは、教育についての部門の設置であります。岐阜県の人々、昔から今日まで、どのようにして、どのような教育を受けてきたかということは、現在の児童生徒にとり特に興味あるところでもあります。教育についての資料の収集や展示を系統的に手付けている博物館は少ないのではないでしょうが、以上思いつくまゝに感想の一端をのべました。

×編者注： 筆者松原先生は、岐阜県羽前郡岐南町出身の心理学者。東京の岐阜県学寮々監も兼務されが、岐阜県出身の若者たちの世話もしております。

源太郎橋棚伝(5)

宮山奇 榎



源太郎の育ち、に岐阜県
本巢郡北方町は、大昔この
の地方をいらした人の名をと、て安堵
の郷といい、その後北方村とい、に。
旧幕時代信州松本六万石の分家・五千
石の旗本陣屋のあり、にところ、明治維
新当時は戸田光遠の領地であ、に。

陣屋は地下という部落のお屋敷跡に
その面影をとどめている。ちょうど源
太郎の生家の南方数百メートルのところ
にあたる。

お屋敷の中に城跡やお役所があり、
その中間に武士の子弟を教育する化成
舎と呼ぶ学問所があ、に。

国民皆就学をうた、に明治五年八月
の文部省布達により、学制が發布され、
北方村でも元領主の戸田家より、旧学
問所化成舎の寄付を受けて、まず私立
の学校をつくることにな、に。そして、
明治六年五月、長谷部岐阜令あて「小
学義校開校願書」を出して許可をえた。
これを化成舎と呼んだ。しばらくして、
化成義校とか、化成学校と改めた。百
姓・町人の子どもは、これまで村に土
軒あ、に寺小屋で読み書きソロバンを
習、ていた。勿論一部の者であ、に。

源太郎は四才の時(明治七年、1874)
この化成舎へはい、に。今ならば、さ
しずめ幼稚園というところだが、なが

ながむずかしいことを習、ていた。も
との寺小屋のお師匠さんは手習い(今の
習字)の先生にな、に。手習いといわず
筆学とい、に。ソロバンも算術とい、に。
先生も正式には教授とか助教とい、に。

教頭(今の校長)が皇学支那学校教
授星野三省(44才)、その試補として元
領主士族戸田光遠(22才)、助教が戸田
龍彦(18才)、近藤友諒(17才)、大野甫(19才)
洋学教授石原欽造(24才)、筆学教授溝
口真澄(33才)(大井神社神職)、その助教
佐藤源六(48才)、算術教授永田元吉郎、
助教が近藤嘉右衛門、井上治八、佐藤
秀吉、先生はこの12人。

「生徒八午前7時出頭、12時退食午後
1時出頭4時退休ノ事」「一級卒業試験
ノ上進級ロシムルハ常法タレトモ格別
勸励或ハ益情放逸ノ徒ハ卒業ヲ待タズ
臨時進停セシムベキ事」「一年二十銭ノ
授業料ヲオサメル」等々いろいろとり
きめてあ、に。

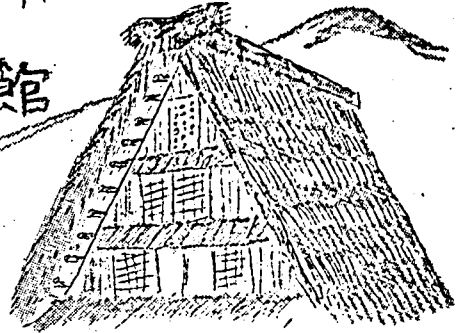
源太郎は小学校入学までの二年間を、
この化成舎において、読本輪講・書牘
(手紙文のこと)、養生口授、理学輪講な
ど、むづかしい漢字まじりの本で勉強
をした。 — フブク —

※注 義校とは、今でいう私立小学校。
岐阜県では公立に先立、てまず私立
から生まれたといえるのです。

おでかけください

館・園 紹介 No.5

飛山 民俗館



都会の騒音・雑踏を世れて、緑豊かな自然の世界を求める旅行が目立つ頃、岐阜・名古屋方面から、後継高山方面へ自動車を出かける人が多くなりました。そんなカー・旅行者にと、では、金山町あたりは、絶好の休息地、国道に沿って数々のドライブインが出現しているのうなづけます。そんな中で、後継金山観光KKの経営になる「ドライブイン 飛山」は、ただ食べ物や土産を売ることに終わることなく、個人的な収集品を土台に、立派な民俗館を完成させ、一般に公開されています。

国道の西側、立派な飛山の建物の裏に、白川村芦倉から移築された合掌造り「東家」には、もうお気づきの方も多ことでしょう。これは、安永7年の再建物で、約200年前のもの、広間型を基本とした典型的なかたぎ造りの、二重下屋造り。五箇山風の優れた合掌造りです。中に展示されている民芸品は、合掌造りにまつわるものばかりということなく、後継地方一円のお古きもの。土地の社会科の先生の助力により作られたという解説テープが流せ

れています。

経営者としては、二階などの養蚕資料室では、実際に蚕の飼育を行い、生きた作業の展示も考えておられるとのこと。できることなら、専属の解説員というのが、博物館教師を養成され、一方的に見せ、解説するだけでなく、見学者の質問にどのようにも答えてくれるようになる、してほしいものです。

見たところ、周辺一帯にはまだかなりの土地の余裕があるようです。外果種や園芸植物をビッシリ植えるということもなく、金山町の山麓地帯にぞく普通の樹木を、ミスナラヤクリ、ハンノキなどを、移植され、合掌造りを取りまく自然風物にまぶ工夫されることを望みます。ドライブインで食事をすませ、民俗館で、人間の古き時代の知恵に感服し、外に出て豊かな緑の樹蔭にのんびり！……楽しいドライブ旅行のひとつまになるにちがひありません。

所在地；〒509-16 益田郡金山町上市場
ドライブイン飛山内

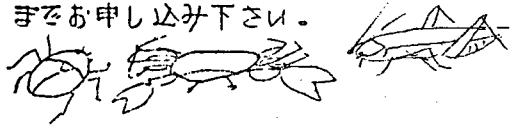
事務局より

県立総合博物館建設について

—要望書と構想案—

当協会では、岐阜県文化団体会議との連名で、上記のようなP.11にわたる構想案を作成し、県当局及び関係諸方面に配布しました。大変きにならない印

刷ですが、それを復写したものをあとどけ致します。それぞれ立場で、いろいろな声を盛り上げ、一日も早い実現を期しましょう。正式な構想案御希望の方は、35円切手同封で、事務局までお申し込み下さい。



会費を納入下さい

振替用紙を同封致しました。会費未納の館園は至急送金下さい。毎号の送料だけでもかなりの金額になります。

| | |
|--------|--------|
| 公立博物館園 | 1,500円 |
| 私立 “ “ | 1,000円 |
| 個人会員 | 300円 |

振替番号 名古屋 28716



—市民の巨めの—

『生涯教育』

日本放送出版協会発行。

これからの教育全5巻の 4, ¥380-

学校だけが教育の場という考え方が過去のものとなり、生涯教育のあり方が云々される世界的なうごきの中で、博物館は何をなし得るのか、何をなさねばならぬのか……この本には、図書館問題については、21ページにわたって、現実分析・改革の方途などの記述があり、また、博物館については具体的にとり上げられた部分がない。しかし、その教育理想等、博物館が背景として持ちねばならない生涯教育のあり方全般についての参考書としてすめたい。

編集後記

★4・5合併号はお読みいただけましたでしょうか。本号をもって、本誌も満1年を終えました。あゝもしい、こうもしいと思いつつながら、結局何もできずじまいでした。一日も早く、本誌もタイプ印刷ぐらいで発行したいものです。

★新年号からは、二年目の歴史を、またヨチヨチとでも刻みこんでまいります。とんとん原稿お寄せ下さい。

